

刻む会

たより

No.39

2009. 12. 26

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局 宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内)

TEL 〇八三六(二一)八〇〇三

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01590017132405

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

追悼碑建立募金

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 01370191986003

名義 長生炭鉱水没事故犠牲者追悼碑建立基金

ホームページ <http://chouseiki.zamukai.hp.infoseek.co.jp/index.html>

韓国遺族会との心の距離を埋める旅

井上洋子

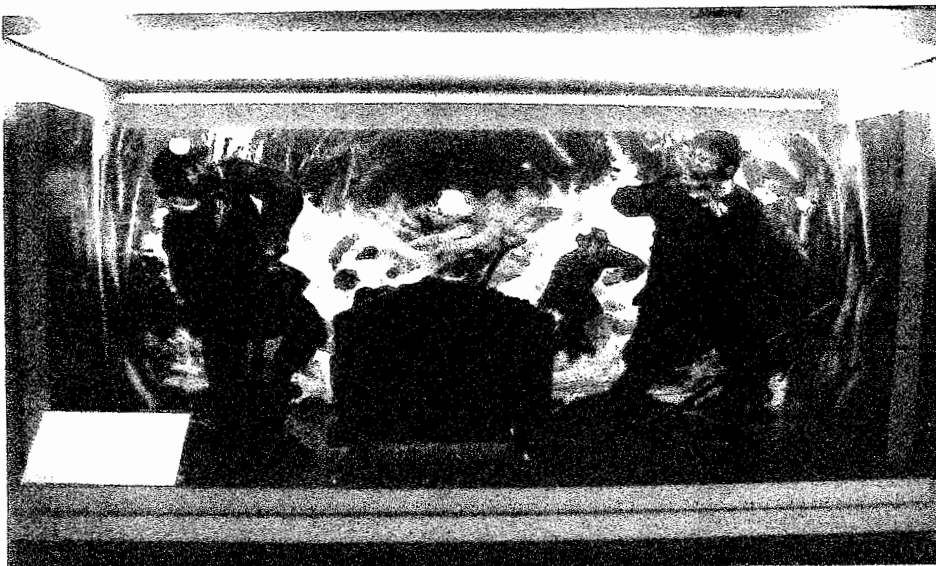
刻む会の運動は結成以来の大きな変革のときを迎えた。長年探し求め続けてきた追悼碑建立のための土地が、長生海岸に面した所のようにやく確保できたからだ。勢い、運動は「刻む会」の狭い市民運動の枠ではなく、より広く募金活動を行うために、「追悼碑建立委員会」の設立へと動き始めた。

しかし、ここに来て韓国の遺族会との間に追悼碑をめぐる大きな認識の違いが発覚した。刻む会は、当初から追悼碑には「日本人を含む犠牲者全員の名前を明記」することをひとつの目的としてきた。それは、歴史的事実そ

のものを知らせるという目的からして当然のことであり、日本人としては、共に犠牲となつた日本人をあえて追悼碑から除外することなど全く考えてはいなかった。

7月24日に、遺族の代表2名を招聘し、入手した土地をみていただいた。その際に「日本人犠牲者の名前と一緒に朝鮮人犠牲者の名前が刻まれる」という刻む会の考えを遺族会は始めて知ったことになる。

そのことを帰国して報告すると遺族会のメンバーからは、加害側の「日本人」の名前と一緒に刻まれるなら、その追悼碑を拜む(先祖への尊敬を表す儀式)ことができないとして、緊急の遺族会総会が8月24日に開かれた。



韓国・独立記念館に飾られていた長生炭鉱の絵

この間の過程で、遺族会は結成当時から「犠

牲者全員の名前」とは「朝鮮人犠牲者」と理

解してきていたことが判明し、長生海岸現地

で毎年営まれてきた追悼式も、韓国から招聘

したご遺族によるチェサ（祭礼）がメインと

言っても過言ではないものだったので、「朝鮮

人犠牲者のための追悼碑」と思いこまれてき

たことは、無理からぬことだった。

総会での協議の結果は公式文書で伝えられ

た。日本人を含む全犠牲者の名前を刻むこと

には同意するが、名前は区分して記載する、

「強制動員朝鮮人長生炭鉱犠牲者追悼碑」と

する、遺族会の追悼文を掲載する等、いくつ

かの条件が付してあった。

「日本人を含む全員の名前を刻む」ことに

遺族会の同意は得たけれど、それは、遺族会

にとって、毎年招聘を受けている刻む会に対

する一種の「遠慮」のようなものが、会全体

としての同意を後押ししているようだった。

この遺族会の決定を受けて、「刻む会」の議

論は真二つに分かれた。そのため、建立委員

得ない状況となった。

議論のひとつは、韓国のご遺族が心からチ

ェサをすることができないような追悼碑を建

立することに、どれほどの意味があるのか、

加害国の日本人として、ご遺族の心情を一番

大切にすべきであり、朝鮮人のみの追悼碑を

建立すべきだ、と言う意見。

反対に、日本人も加害者ではあるが、大き

な意味で共に戦争の犠牲者であるので、日本

人名も刻むべきだ、日本人犠牲者も共に危険

を承知で海底に動員されたのであり、直接の

加害者ではない等、あくまでも日本人を含む

全員の名前を刻むべきだとう意見。

何度も会を開き、議論を重ねたが、日韓の

文化、歴史、慣習等の違いもあり、お互いの

理解を深めるために、この際訪韓して、この

間追悼碑の件で一番心痛をされていた孫事務

局長に非公式にお会いすることがベターとな

り、あたふたと訪韓が実現した。

10月31日から2泊3日で、内岡さんと

私井上が訪韓することとなり、くしくも、真二

ような形となった。九州大学大学院で国際社

会文化専攻の大和さんが取材同行された。（詳

細は大和さんが報告）

孫さんから直接「追悼碑」について具体的

な考え、心情を聞いたわけではないが、国営

の「独立記念館」や、海外で戦争の犠牲にな

った皆様の「望郷の丘」等を案内してもらい、

また、孫さんから、日本国がしてきた卑劣な

最も許せない行為（韓国の人々の、氣、を折

るために国中の山々に杭を打ち込んだ）や、

日本政府はまだ公式にきちんと謝罪をしてい

ないこと等々を聞くことができ、心から交流

ができた収穫の多い旅となった。

帰国後の会議では、建立委員会への申し送

りとして「遺族会総会の決定を尊重すること、

韓国の遺族が心からチェサができる碑にする

こと、委員会での討議はその都度遺族会に報

告すること」等が、決定された。

来年1月末の追悼集会は、建立委員会の設

立に向けた大衆的な呼びかけの場とし、取得

した土地紹介を含め建立予定地で開催するこ

せていただき、皆様からのカンパは極力建立資金にシフトすること等が決定となった。中断されていた建立委員会の設立へ向けた取り組みは、3月末の正式設立を目指してやっと再開できるようになった。

韓国では遺骨や遺髪がなければ、たとえ死亡したとしてもお墓を造ることはできないこと、だからこそ、ご遺族は遺骨収集に一縷の望みを持ち続けていること、遺骨の眠る長生の地への思いがどれほど深いものであるか、そのことを心に受け止めながら、新たな募金運動へと全力を注いでいきたいと思う。



8・15に平和を考えるつどいにて講演

2009年の活動を振り返って

- 1月16日 事務局会議
- 1月31日～2月2日 韓国・遺族訪問
- 2月 1日 67周年追悼集会(韓国より来日遺族11名) 参加者150名
- 2月 2日 韓国・遺族会 宇部市・山口県庁表敬訪問
- 3月 6日 事務局会議
- 3月27日 事務局会議
- 4月20日 追悼碑建立のための土地94坪を正式入手
- 4月23日 事務局会議
- 5月 5日 宇部新川まつり参加(物販および紙芝居上演)
- 5月15日 事務局会議
- 5月23日 追悼碑建立のための土地の草取り
- 6月14日 韓国・遺族会総会
- 6月26日 事務局会議
- 7月 9日～10日 第34回部落解放・人権西日本夏期講座(山口市スポーツ文化センター)にてチラシ配布とカンパ活動
- 7月18日 「在日朝鮮人歴史・人権週間」山口集会(下関)にてアピール
- 7月21日 韓国・光州から中学生30名、教師4名が西光寺・長生海岸を訪問
- 7月24日 韓国遺族会来日(金亨洙^{キムヒョンソ}会長・楊玄^{ヤンヒョク}副会長、通訳として堤美貴さんの3名)追悼碑建立予定地の視察及び意見交換
- 8月 4日 宇部医療建文会「平和のための戦争展」にて長生炭鉱のフィールドワークと講話
- 8月15日 「8・15に平和を考える集い」(宇部市シルバーふれあいセンター)にて講演
- 8月23日 「夏のフィールドワーク」・・・次ページ報告参照
- 8月24日 韓国遺族会臨時総会・・・1ページ報告参照
- 8月29日 「在日朝鮮人歴史・人権週間」全国集会(名古屋)にてアピール

9月 4日 事務局会議
 9月 19日 下関朝鮮初級学校の児童によるフィールドワーク
 9月 25日 事務局会議
 10月 16日 宇部市新市長・久保田氏を表敬訪問
 同日 事務局会議
 10月 31日～11月 1日 韓国・孫事務局長を訪ねる旅・・・7ページ報告参照
 10月 31日～11月 3日 韓国遺族会より寄付された物販をうべまつりにて販売
 11月 15日 崔善愛氏講演会(宇部・緑橋教会にて)・・・6ページ報告参照
 11月 27日 事務局会議
 12月 11日 事務局会議

「海に沈んだ長生炭鉱」と

周辺炭鉱のフィールドワーク

―歴史の事実を知ることからはじめよう―

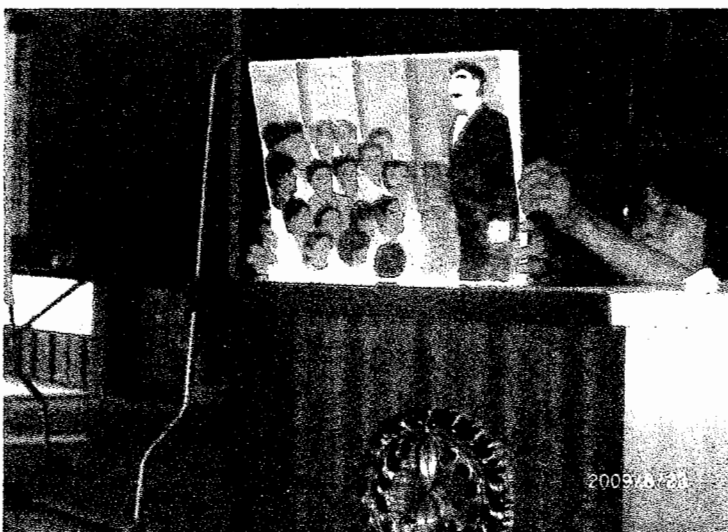
内岡 貞雄

二〇〇九年八月三日(日)、午前十時から午後三時にかけて山口武信先生の案内でフィールドワークが行なわれました。あいにくこの日は、小学校の授業参観のため、子どもたちの参加が少なかったことは反省点になりました。それでも、高知在住の岡本さん(宇部出身)をはじめ十人余が熱心に参加してください、充実したフィールドワークになりました。

まず、私たちは宇部興産本社前を二キロほど南に行った宇部興産機械(株)構内にある①沖ノ山炭鉱(一八九七～一九六七年)をたずねました。十数mもある電車堅坑巻き揚げ機が見えました。沖ノ山炭鉱は宇部最大の炭鉱(全宇部の出炭量の約三割占有)で、一九二〇年以降、とりわけ一九三九年から朝鮮人

部興産(一九四二年創立)の日本人の労務監督者の暴言に対し、朝鮮人坑夫が団結して抗議したという史実は彼らの勇気を感じます。

次は宇部第二の②東見初炭鉱(全宇部の出炭量の四分の一占有)に行きました。跡地は沖ノ山の埋立地になっていますが、この地にあった堅坑櫓は一九六九年、ときわ公園の石炭記念館に移行されました。私たちは一九二五年に起こった海底陥落の事故現場の方に黙禱



「アボジは海の底」の紙芝居の様子(西光寺にて)



山口会長の話

しました。その犠牲者二三五名は源山墓地の共同の墓に慰霊されています。源山墓地の墓に刻まれた二三五人は全員日本人の名前でした。当時、まだ朝鮮人坑夫の受け入れはなかったようです。

午後から③西光寺に行きました。すでに、長生炭鉱水没事故の犠牲者一八三名の位牌は並べられており、山口先生から一九四二年二月三日の事故当日とその前後の様子のお話を聞きました。そこで改めて感じたことは、事

故のあった坑道の出水は一九四一年十一月三十日に起こり、その日から海底陥落の予兆はすでに始まっていたことでした。いくら知恵を集めた牛蒡木固（こぼうきこ）を組み、坑道を塞いだといっても、海水圧はそのくらいで収まるはずはありません。出水から六十五日の二月三日未明、長生炭鉱の海底陥落は起こるべくして起きた「人災だ」という思いを強くしました。事故がたとえ戦時中であっても、「人の命はどうなってもいい」という人命軽視は許せません。「お国のため、ひいては

天皇のためにつくせばいい」という考えが蔓延していたのでしよう、なかんずく朝鮮人坑夫たちの命は一番軽く見られていたのは容易に推測できます。「アボシは海の底」の紙芝居を見ながらこのように考えました。それから

④「殉難碑（男たちの碑）」を見ました。この碑に犠牲者一八三名の名前がない訳は、これを建立した人々が「過去の歴史の事実を目を向ける勇気を持たなかった結果」と思っています。最後に⑤西岐波の海岸で「バーヤに向かって参

加者全員で献花、黙想をしました。今回、福

岡市から参加した澤邊香織さん（二〇〇九年十二月九日「ハルモニ」たちの教室―北九州夜間中学―）「NHK教育全国放送のプロジェクト―サー―は「長生炭鉱のように遺骨が未回収で、過去の歴史が未解決であるところがまだまだ多いことを知りました。過去の歴史にきちんと学びながら在日問題を捉え、朝鮮半島と日本の友好が築けるように努力したい」と言われた。

「フィールドワークの現場であなたは何を考え、これから何をしたい」とするののか、それが大切なことですよ。」と先達に助言されたことを銘記したいと思います。

長生炭坑浸水
三月九日四十分ごろ、高市外
西岐波村長生炭坑（現高市外
西岐波）の坑より約千尺の深
大谷の坑、船岡代、林、常川、
大谷氏の坑より約千尺の深
とあり引續き可成り深
千尋を越え、下層に陥落し、
ひも新たに午後一時を過ぎ、
散射した



松田 健二 中将 歴任中
大分地方に赴き 三月九日
一階に二分ろ大分地方に赴き
あつた。は時計の機子が止り歩行
一階に二分ろ大分地方に赴き
あつた。は時計の機子が止り歩行

事故当時の新聞記事

崔善恵さんの講演会を聴いて

杉山博昭

私は、1991年に大阪の東梅田教会で行われた、2・11集会で崔昌華牧師の講演を聴きました。私事ですが、妻と最初に出会ったのがこの講演だったので、私にとって特別な思いがあるのですが、やはり印象に残っているのは、核心を衝いた力強いメッセージであり、金嬉老事件やNHKとの訴訟などのこれまでの行動の軌跡が語られ、さらにキリスト教界への厳しい批判が、実名を出して展開されました。

崔牧師はもともと日本キリスト改革派教会の牧師であったため、改革派教会内での被差別体験が語られました。改革派教会の牧師たちは、日常の人間関係においては、崔牧師とごく普通に付き合っており、善良なキリスト者であるけれども、民族の持ち出しと、とたんに壁をつくるというのです。当時私は改革派教会に属していただけに、単にかつての同僚牧師への批判ではな

く、みずからの課題を突き付けられたように感じました。

崔善恵さんについても、もちろん関心はあったのですが、思いがけず自分の教会で講演会がもたれて感謝です。崔さんは、他の在日コリアン同様、指紋押捺をするのですが、大学在学中、被差別部落出身の後輩からの相談で、何もしないことで差別が続く現実を知り、押捺拒否を決意します。そのことで、さまざまな出来事が続くことになります。検察の取り調べを受け、刑事被告人として裁判の場に立ち、有罪判決を受けます。押捺を拒否していることで起きたのは、海外に出国した場合、「再入国」できなくなるという問題でした。アメリカへの留学をあえて決意するのですが、アメリカのビザがおりののかという問題に直面します。しかし、黒人女性のアメリカ領事が「あなたは日本で生まれ、日本に家族がいる。そんなあなたが日本に戻って来られないはずはない」と述べて、ビザが出ることになりました。

しかし、留学できても、「再入国」の問題

は避けられません。韓国に向かう途中で乗り換えるという形で、とりあえず成田に降り、取り調べを受けた結果が、180日間の特別在留許可でした。参議院法務委員会に参考人として招かれたことを経て、ようやく永住権を取り戻しますが、そのときご両親はすでに亡くなっていました。

私は崔さんのお話を直接聴くのは初めてですが、つい崔牧師の力強い印象を重ね合わせたい。指紋押捺拒否を貫いたというイメージがあつて、強い人として意識していたのですが、そうではない率直な姿が語られていました。特にビザが出る経緯につ



お話をされる崔善恵さん

いて、涙を流しながら語っていました。

強固な信念をもった者がどんな迫害にも屈せず拒否を貫いたのではなく、激しい葛藤のなかでの行動であったということ、その都度迷い、悩みがあつたことを知りまして。それだけに、何が彼女を突き動かしているのか、日本や日本人への批判的な発言はほとんどありませんでしたが、事実の積み重ねのなかで日本の今の姿が示されていたと感じます。

在日の問題はすでに区切りがついたような印象があります。在日の学者がベストセラーを連発するなど、日本のなかで強固な位置を獲得した雰囲気さえ見受けられます。しかし、従軍慰安婦問題一つとっても、何ら前進していません。政権交代によって再び提起されそうな地方参政権をめぐる、保守派による巻き返しが強まることも予想されます。崔さんが直面してきた事実が、私たちがどれだけ向き合うことができるかが問われてくることを痛感させられました。

韓国に行ってきました！

大和裕美子

10月30日～11月1日の二泊三日で韓国に行ってきました。井上洋子氏と内岡貞雄氏が長生炭鉱水没事故で祖父を亡くされた孫鳳秀氏に会いに行かれるというので、「私も行きたいです！」とお願ひして随行させてくださいました(笑)。

まず、韓国の江原道「洪川」にある孫氏が工場長を務めるH I T Eを見学させていただきました。ところで、みなさんH I T Eってご存知ですか？韓国に行かれたことがある方なら、必ずと言っていいほど目にされているのでは…というくらい有名な韓国のビール会社です。壮大な敷地と技術を有するこのH I T E工場で、韓国在住の日本語教師、堤美貴氏とも再会しました。堤氏は今年の追悼式で弔辞を読まれた方で、孫氏の日本語の先生でもあります。洪川のお隣の都市「春川」で、名物の「タツカルビ」をいただきながら、楽しい時間を過ごしました。

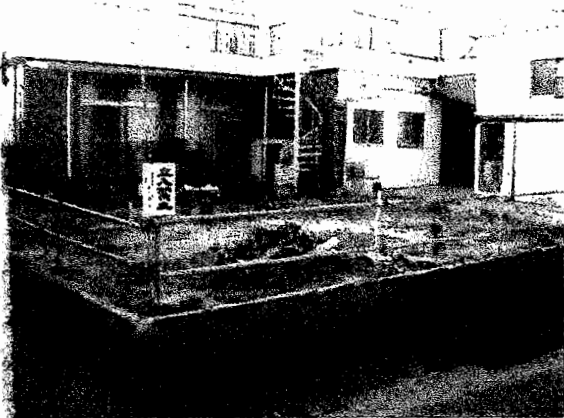
2日目は、忠誠南道の天安にある「独立記念館」を訪れました。ここ「独立記念館」は、「日本の植民地となり、残忍な弾圧と虐殺の苦痛を味わい」ながらも、「不屈の意志で独立運動を行い、1945年8月15日に国権を取り戻した」韓国近代の歴史を、約400k²mの美しい自然の中に7つの展示館と象徴造形物、野外展示場で展示している施設です(※)。なんと、この「第2展示館」に長生炭鉱の“水非常”のコーナーが設置されていたんです！！とても広大な施設ですが、具体的な事例に関する展示はほとんどと言っていいほどないので、そのなかで長生炭鉱だけが取り上げられていました。とりわけ感無量だったのが「刻む会」の設立当時から携わっている井上洋子氏。「自分たちが長年取り組んできた活動の成果…」と感動もひとしおだったようです。(1ページ目の写真参照)

一行は再び孫氏の運転で春川へ戻り、韓国の官廷料理をいただきました。お互いを思う気持ちの行き違いがあり、お酒なしで

の食事になったことが井上氏にとっては非常に心残りになったようです(笑)。食事のあとホテルに帰ったあとは、孫氏といろいろな会話を交わしました。堤氏の通訳のおかげもあり、大変深い議論になったように思います。そんななか、ビックリニュースが！孫氏が結婚されるとのこと！！
 というわけで、12月末には井上氏と私とで、孫氏の結婚式に出席してきます(笑)。

※<http://www.i815.or.kr/JP/index.html>の

「あいさつ」より引用



33名の犠牲者が刻まれる追悼碑建立予定地
 (なお、建物は集会までに取り壊し予定)

2010年追悼集会のご案内

長生炭鉱水没事故 68 周年の追悼集会を

2010年1月31日(日) 午後2時より行います。

私たち「刻む会」は 1992 年より事故のあった2月3日前後に、毎年韓国からご遺族をお招きして追悼集会を行ってきました。2010 年は19回目の追悼式となります。

今回は追悼碑建立のために購入した土地で追悼式(チェーサ)を行いたいと思っております。追悼式終了後には浜中集会所にて遺族のみなさんへながら、追悼碑建立委員会の立ち上げ報告する集会を行いたいと思っております。

ぜひご参加くださいますようお願いいたします。



案内図